

第 11 期

事 業 報 告 書
決 算 報 告 書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 復 康 会

令和4年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1
II. 事業活動	2
III. 理事会・評議員会の開催	3
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	5
[2] 精神保健相談・健康相談活動	5
[3] 研究発表	6
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	10
[鷹岡病院グループ]	16
[沼津リハビリテーション病院グループ]	20
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	23
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	27
[2] 嘱託医の受託	30
[3] 実習病院の受託	30
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	31
[5] 関連諸団体の活動	32
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	33
[7] 受託事業	36
VIII. 職員配置状況	37

I-III 事業報告

I. 今期の概況

令和4(2022)年度は、第4次中長期経営計画の最終年度に該当し、年度の振り返りと共に、5年分の総括を行う機会となる。

新型コロナウイルス感染症流行は3年目で、年度終了後に法律上の位置づけも変更され実質上の流行最終年度となった。変異を経て軽症化し、感染による重症化リスクは軽減したが、当法人内でも各事業所グループでそれぞれ複数回の大きなクラスターが発生し、法人の中核事業であるサービス提供や、経営に大きく影響した。

入院医療の提供を反映する病床稼働率は、3病院共に大幅な低水準が不可避な状況を経験し、社会復帰事業部の一部事業所で短期の休業、富士地区の地域交流イベントで中止を余儀なくされた。

他方、経営面では、2期連続の黒字を達成した。要因としてはクラスター発生時の加算や補助にも大いに助けられたが、本部事務局による「経営の見える化」とPDCAサイクルによる予実管理、ひいては職員の多くが個々に経営方針を理解し、事業計画・予算達成に向けた意識を浸透させ、意欲をもって業績改善に尽力したことが要因と考える。しかしながら、中長期計画として見れば、長期に亘る低迷期をようやく脱する兆しが見えているに過ぎず、改善すべき課題は山積と認識すべきであろう。

このような逆風の中、地域に責任を持った形での専門医療（地域精神保健と精神科救急医療、回復期リハビリテーション）の提供は何とか継続できた。多様化しつつある精神科医療ニーズ（児童思春期、認知症、依存症、摂食障害、発達障害等）、指定難病や高齢者の慢性疾患療養および在宅医療ニーズには課題を残しつつも鋭意対応している。特に訪問看護サービスの業績は良好で、今後の更なる発展が望ましい。行動制限最小化については沼津中央病院で大きな成果があり、今後法人内外への浸透・普及が期待される。同院では、ピアサポーターとして当事者の雇用を実現した。県内および業界内で同業者の不祥事が相次いで報道され、ちょうど次期中長期経営計画で人権と当事者視点の重要性を強化する方針としていたところ、今後更なる問題意識の共有と浸透が必要である。県の指定による災害拠点精神科病院、DPAT先遣隊は特に出動機会がなかった。

人材育成面では、精神科専門医制度の専門研修プログラムへの応募が順調である他、院内研修では配信サービスを活用するなどの工夫を行った。医師の働き方改革の運用実施に向けた対応を兼ねて勤怠システムの準備等を漸次進め、本年度には稼働開始予定である。一部職種の人材確保には課題も多く、今後に向けタスクシフトシェアリング等への取り組みも開始された。

本年度において、新規事業の開始はなかった。共同生活援助事業を一部廃止した。ハードウェアについて、建築案件等の大規模な施設整備の実施は無かった。

重点目標

- (1) 事業計画を着実に実践し、目標を達成する
法人全体の、協力と連携
- (2) 医療の質の向上、人間愛を心に行動制限の最小化にむけて、創意と工夫をしていく
- (3) 人材確保、人材育成、適正な人材配置
外部研修、資格取得、職員個々のスキルアップをはかる
「医師の働き方改革」の法施行に向けて準備をする
- (4) 令和5年4月からスタートする第5次中長期計画の策定

II. 事業活動

1. [公益目的事業]

- ① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業
 - ・沼津中央病院
県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応型施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に運用し、本年も県下最大の診療数、相談数を計上しその活動は十分であった。また、長期入院者が地域で生活するための基盤活用（セジュール新大橋、法人内グループホームの有効活用）は、セジュール新大橋の入居が 100%を達成し、法人内グループの活用も昨年より増加した。さらに、昨年採用したピアサポーターが活躍の場面を増やしており各方面から期待された年となった。
 - ・鷹岡病院
県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に活動した。
認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため WEB 等も交えて情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。
 - ・沼津リハビリテーション病院
回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。また、療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。
- ② 障害福祉サービス事業
 - ・社会復帰施設
障害種別を問わず、各事業所市町を中心に障害者の地域での暮らしに関する相談、住居、就労等に関する支援を広域的に実施。また、地域行事への参加や当事者活動への協力、ボランティアの受け入れ等、普及啓発活動を通して、地域に開かれた障害福祉サービス事業所運営を行った。
- ③ 介護サービス事業
 - ・通所リハビリテーション
感染対策に配慮しながら、サービス提供を継続した。
 - ・訪問看護ステーション
感染防止に細心の注意を払いながら地域における関係機関との連携に努め、自宅での看取りなどの希望にも可能な限り対応した。4人の看護職員により 24 時間緊急対応を継続した。また、今年度小児の訪問も実施した。
- ④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業
 - ・沼津中央病院
精神科専門医制度における専門研修プログラム機関研修施設について、近隣協力機関の協力のもと、募集数、登録数ともに確保できており順調に運営している。実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、事務職などについて例年通り行うことができた。
 - ・鷹岡病院
研修医（初期、専門研修 2 名）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受入れを行った。
 - ・沼津リハビリテーション病院
大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成に協力した。
- ⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業
 - ・沼津中央病院
専門上位資格の取得（可能な限り指定医、専門医取得を目指す）に関し、精神保健指定医の出願を 2 名がした。種々の厚生労働科学研究に協力し、個々の学術活動も継続された。
 - ・鷹岡病院
摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。

- ・沼津リハビリテーション病院
前年度からの静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において講演会を実施し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

⑥ 無料相談、助言事業

- ・院内無料精神保健相談
沼津中央病院、大手町クリニック、あたま中央クリニック、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの5拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。
- ・助言事業
静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。

⑦ 保健福祉普及のための啓発事業

- ・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な委員を担うと共に、地域自立支援協議会の運営に協力した。
- ・社会復帰事業部では、沼津市、伊豆の国市からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

- ・特別の療養環境の提供に関する事業
より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。
- ・日常の支援に関する事業
入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。
- ・不動産賃貸業
病院内に売店を設置し、業者に賃貸して運営を委託中。その他、静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

3. [その他の事業]

- ・福利厚生事業
ウイスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、令和4年度はコロナの影響もあり、利用者はいなかった。

Ⅲ. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第46回 理事会	R4.5.26	理事 9名 監事 1名	1. 令和3年度事業報告(案)について 2. 令和3年度決算報告(案)について 3. 育児・介護休業に関する規程の改定について 4. GHコーポ狩野のサテライト型住居「フルール」の廃止について 5. GHふじみIIの廃止について 6. 令和4年度の賞与支給について 7. 理事及び監事候補者の選出について 8. 定時評議員会の招集(案)について 報告事項 ① 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第19回 評議員会	R4.6.23	評議員 6名 監事 2名	1. 令和3年度事業報告(案)について 2. 令和3年度決算報告(案)について 3. 理事及び監事の選任について
第47回 理事会	R4.6.23	理事 9名 監事 2名	1. 理事長、常務理事、業務執行理事の選定について
第48回 理事会	R4.12.16	理事 9名 監事 2名	1. 令和4年度第1次補正予算について 2. 就業規則の改定について 3. 役員等職務権限規程の改定について 4. 特定費用準備金等取扱規程の制定について 報告事項 ① 第4次中長期経営計画の総括について ② 理事長、常務理事及び業務執行理事の職務執行状況報告 ③ 令和4年9月期の業績について
第49回 理事会	R5.3.23	理事 9名 監事 2名	1. 令和4年度徴収不能損失について 2. 第5次中長期経営計画(案)について 3. 令和5年度事業計画(案)について 4. 令和5年度予算(案)について 5. 公益通報者保護規程の改定について 6. 給与規程の改定について 7. 資産運用ガイドラインの見直しについて 報告事項 ① 令和4年度 期末業績予想について ② 資産運用報告について

以上

IV. 活動報告

〔1〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	21,676	5	0	21,681	162,975	
外来	延人数	1,158	13,805	0	14,963	117,792	
計		22,834	13,810	0	36,644	280,767	13.0%

〔2〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼津中央病院	年1回	精神保健福祉総合相談	大原 佑生	静岡県東部健康福祉センター
	年2回	精神保健福祉総合相談	福田 紘之	静岡県東部健康福祉センター
	年1回	精神保健福祉総合相談	藤田裕加里	静岡県東部健康福祉センター
	年4回	清水町役場こころの健康相談会	梶浦裕治	清水町役場
	年4回	清水町役場こころの健康相談会	市川容代	清水町役場
鷹岡病院	年12回	富士市職員メンタルヘルス相談	石田多嘉子	富士市役所
	年2回	精神保健福祉総合相談	高木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年2回	静岡県職員健康相談	〃	静岡県経営管理部
	年2回	保護者カウンセリング事業	〃	富士児童相談所
	随時	教職員面接指導	〃	富士市教育委員会
	随時	健康相談・面接指導	〃	富士地域産業保健センター
	年6回	ストレス相談	久保伸年	富士市保健部健康対策課
	年6回	〃	鈴木順一	〃
	年2回	県立職業訓練校精神保健福祉相談	山口雅弘	静岡県経済産業部
随時	犯罪被害者面接相談	久保伸年	静岡被害者支援センター	
社会復帰事業部	年6回	伊豆市サテライト相談会	池田友美	伊豆市
	年12回	沼津市障害者専門相談会	内藤治子	沼津市社会福祉協議会

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼津中央病院		111	130	115	82	118	129	120	125	122	105	94	100	1,351
大手町クリニック		788	653	720	569	788	758	654	608	688	612	607	667	8,112
あたま中央クリニック		67	53	84	110	122	84	90	65	110	94	131	147	1,157
鷹岡病院		80	64	46	32	20	35	24	44	26	26	36	24	457
富士メンタルクリニック		0	3	5	3	3	6	5	4	2	2	3	2	38

[3] 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 第47回日本精神科看護学術集会パネリスト 梶浦 裕治 2022/6/23
2. 令和4年度第1回自殺未遂者ケア研修(精神科救急版)「自殺未遂者対応ガイドラインの説明」
杉山 直也 2022/6/26
3. 令和3年度研修会 自殺対策基礎研修会 『死にたい気持ち』に対して私たちができること
の節目に～ 日野 耕介 2022/8/4
4. 日本デイケア学会第27回年次大会静岡大会 ストレッチポールを使用したリラクゼーションに関
する研究 小嶋有美 2022/9/3～4
5. 第30回日本精神科救急学会学術総会 特別講演 「精神科救急の過去・現在・未来～学会発足年目
の節目に～ 杉山 直也 2022/9/30
6. 第30回日本精神科救急学会学術総会 ポスター 「精神科救急入院科病棟でのグループ治療におけ
るピア活動に伴うリカバリー志向の変化について」 長谷川 花 2022/9/30
7. 第30回日本精神科救急学会学術総会 沼津中央病院の退院後支援の取り組み 北舘美沙依
2022/10/1
8. 第35回日本総合病院精神医学会総会 「コロナ禍における自殺関連問題」 日野 耕介 2022/10/28
9. 第11回日本精神科医学会学術大会 演題発表 竹内晃・久野満津代 2022/10/28
10. 第15回静岡県精神科救急医療研究会 特別講演 「身体拘束ゼロ化を目指して」「国家的規模の臨
床データからわかること～RealWorldDataの活用と意義」 杉山 直也 2022/10/29
11. 日本精神科救急学会 第30回学術総会 発表 梶浦 裕治 2022/10/29
12. 日本精神科看護協会静岡支部研修 研究発表 影山 恵理 2022/11/12
13. 令和4年度静岡県自殺未遂者ケア研修会 「自殺未遂者対応ガイドライン」杉山 直也 2022/11/13
14. 第29回日本精神科看護専門学術集会 梶浦 裕治 2022/11/19
15. 第29回 日本精神科看護専門学術集会(令和3年度政策調査報告)発表 市川容代 2022/11/19
16. 令和4年度自殺未遂者ケア研修 第2回精神科救急版 「自殺未遂者対応ガイドラインの説明」
杉山 直也 2022/12/18
17. 全国精神保健福祉連絡協議会 2022年度研修会「行政主導によるコアストラテジーを軸とした行動制
限最小化普及策」 杉山 直也 2023/1/21
18. 第2回精神科救急医療体制整備研修 「精神科救急医療の現状と課題」 杉山 直也 2023/2/4
19. 若年層自殺対策研修会 「若年層(児童・生徒)の自傷行為の考え方、対応について」宇賀神北斗
2023/2/21
20. 東京精神医学会第127回学術集会「多彩な精神症状を呈する自閉スペクトラム症の薬物治療におけ
る課題 -強迫症状にSSRIが奏功した-自験例より」 福田 紘之 2023/3/4
21. 第17回年次カンファレンス「興奮・攻撃性の機序と対応 日本精神科救急学会 2022年ガイドライ
ンの要点、組織的取り組みの重要性等」 杉山 直也 2023/3/25

【シンポジウム】

1. 橋本聡, 日野耕介, 井上幸代, 兼久雅之, 五明佐也香, 河寫讓, 北元健, 来住由樹, 山下建昭, 三
宅康史 杉山直也:精神科救急スクリーニング&トリアージツールは精神科・一般救急医療との連携
強化に有用である. シンポジウム2「精神科・一般救急医療連携の深化に向けて～様々な好事例に
みえる熱意・信頼・好奇心から学ぶ～」. 第118回日本精神神経学会学術総会 2022/6/16 福岡
2. 杉山直也:精神科領域における実効的な行動制限最小化の普及について. シンポジウム23「曲がり
角に立つ精神科入院医療-マクロ状況と精神科臨床から-」. 第118回日本精神神経学会学術総会

2022/6/16 福岡

3. 第 30 回日本精神科救急学会学術総会 シンポジウム 2 「日本精神科救急学会治療ガイドライン 2022」 杉山 直也 2022/9/30
4. 杉山直也：精神科救急の過去・現在・未来～学会発足 30 年の節目に～. 特別講演. 第 30 回日本精神科救急学会学術総会 2022/9/30 埼玉
5. 杉山直也：精神科救急の過去・現在・未来. シンポジウム 6 「精神科救急 これからどうなる～歴代会長理事長の見解～」. 第 11 回日本精神科医学会学術総会 2022/10/28 浜松
6. 杉山直也：コア・ストラテジーを軸とした標準的最小化策の普及ツールの開発～行政支援による実効的な最小化策の提案～. シンポジウム 8 「行動制限最小化に関する最近の動向」. 第 11 回日本精神科医学会学術総会 2022/10/28 浜松
7. 第 15 回静岡県救急医療研究会シンポジウム 梶浦 裕治 2022/10/29
8. 行動制限最小化と拘束ゼロを目指して. これからの精神科病院を考える会第 4 回シンポジウム「患者の人権と尊厳を守りながら治療を進めることについて」 2022/12/17 WEB 開催
9. 日野 耕介：救急医療と精神科医療の連携を促進するための方法. シンポジウム 44 「よりよい精神科医療を行うための具体的な方法」 第 118 回日本精神神経学会学術総会 2022/6/17 福岡
10. 日野 耕介, 橋本 聡, 寺地 沙緒里, 河島 譲, 手塚 幸雄, 牧瀬 わか奈, 佐々木 由里香, 三宅 康史:COVID-19 流行期に救急医療従事者が自殺未遂者対応を学ぶための取り組み. シンポジウム 3 「コロナ禍における自殺関連問題」 第 35 回日本総合病院精神医学会 2022/10/28 東京
11. 宮崎 秀仁, 日野 耕介, 伊藤 翼, 野本 宗孝, 古野 拓, 菱本 明豊：コロナ禍における急性期総合病院での自殺未遂者対応. シンポジウム 3 「コロナ禍における自殺関連問題」 第 35 回日本総合病院精神医学会 2022/10/28 東京

鷹岡病院

1. 中村正子 「IMR 疾病管理とリハビリ」 第 47 回日本精神科看護学術集会 2022/6/24～25
2. 中村正子 IMR 2022 (Illness Management and Recovery: 疾病管理とリハビリ) リハビリ全国フォーラム 2022 2022/10/29～30
3. 中村正子 「はじめよう！IMR」 Illness Management and Recovery: 疾病管理とリハビリ 日本精神障害者リハビリテーション学会第 29 回群馬オンライン大会 2022/12/10～11
4. 小山隆太 水野拓二 川島菜己 川村明広 伊東宏祥 鈴木千代乃 : 入院医療中心から地域生活中心へ～精神科訪問看護指導における院内多職種による新規開拓への取り組み～ 第 11 回静岡県ソーシャルワーク実践研究会 2023/2/4
5. 中村正子 「IMR を始めよう、IMR をより深めよう」 IMR 研修会 2023 2023/2/19

沼津リハビリテーション病院

1. 山内信吾：右延髄梗塞により Lateropulsion を呈した症例～Gaze Stability Exercises (GSE) の効果の検証～第 20 回 日本神経理学療法学会 学術大会 2022/10/15～16
2. 相磯祐弥：右中大脳動脈領域の脳梗塞患者に対し歩行獲得を目指した事例 静岡県理学療法士会 神経系専門部会 研修会 2022/10/20
3. 藤井星矢：頭部外傷から運動失調を呈しバランス能力・歩行安定性が低下した症例 静岡県理学療法士会 神経系専門部会 研修会 2022/10/20
4. 西島 勇：【論文】田中真希、梅本修央、西島勇、鈴木友実：きみでもできる研究活動ー初めての研究活動の道のりー 静岡県理学療法ジャーナル 第 44 号 p1-6 2022

【論文発表】

1. Kotaro Hatta, Shigemasa Katayama, Takuya Ishizuka, Yasuhiko Sudo, Mitsuru Nakamura, Hana Hasegawa, Atsushi Imai, Fumiyoshi Morikawa, Tatsuhiko Shimada, Fuminari Misawa, Shigeru Ozaki, Kiyoshi Fujita, Haruo Watanabe, Hiroyuki Nakamura, Naoya Sugiyama; for the JAST study group. Real-world effectiveness of antipsychotic treatments in 1,011 acutely hospitalized patients with schizophrenia: A one-year follow-up study. *Asian Journal of Psychiatry* 67, 2022, 102917

【著書】

1. 杉山直也：総論 他. 精神科救急医療ガイドライン 2022年版（杉山直也，藤田潔 編），日本精神科救急学会（監修） 2022
2. 杉山直也：精神科救急医療体制の変遷と現在. シリーズ《講座 精神疾患の臨床》第7巻『地域精神医療 リエゾン精神医療 精神科救急医療』，中山書店，370-386，2022

【総説】

1. 杉山直也：2022（令和4）年の診療報酬改定に向けた精神科救急医療の動向. *精神科治療学精神科治療学* 37（2）号，213-218，2022
2. 杉山直也：措置入院者の退院後支援の実際と課題，今後の展望. 特集 措置入院者退院後支援，*日精協誌* 41（3），254-258，2022

【学会発表】

1. 戸井田真木，杉山直也，長谷川花，日野耕介，菱本明豊：新型コロナウイルス感染症に対する推奨外用薬後にステロイド精神病を発症した1例. 東京精神医学会第124回学術集会，東京，2022
2. 竹内宏美，日野耕介，長谷川花，杉山直也：回避・制限性食物摂取障害が疑われた2例—転換性障害や自閉症スペクトラム障害の関連について—. 東京精神医学会第124回学術集会，東京，2022
3. 山下大翔，野口信彦，菱本明豊，杉山直也：熱海土石流災害の支援活動により治療再開に至った統合失調症の治療中断例. 東京精神医学会第124回学術集会，東京，2022
4. Kotaro Hatta, Shigemasa Katayama, Takuya Ishizuka, Yasuhiko Sudo, Mitsuru Nakamura, Hana Hasegawa, Atsushi Imai, Fumiyoshi Morikawa, Tatsuhiko Shimada, Fuminari Misawa, Shigeru Ozaki, Kiyoshi Fujita, Haruo Watanabe, Hiroyuki Nakamura, Naoya Sugiyama; for the JAST study. Real-world Effectiveness of Antipsychotic Treatments in 1011 Acutely hospitalized Patients with Schizophrenia: A One-year Follow-up Study. *SIRS (Schizophrenia International Research Society) 2022 Annual Congress*, April 6-10, 2022 (hybrid: Florence and online)
5. 梶浦裕治，影山恵理，牛島一成，山田信昭，長谷川花，杉山直也：制悪心科救急入院料病棟における身体的拘束ゼロ化の取り組み. 第30回日本精神科救急学会学術総会 2022/9/30 埼玉
6. 佐藤雅美，杉山直也，藤田潔，平田豊明，兼行浩史，川畑俊貴，来住由樹，鴻巣泰治，澤温，塚本哲司，橋本聡，八田耕太郎，堀川公平，直江寿一郎（一般社団法人日本精神科救急学会医療政策委員会）：精神科救急入院料病棟における隔離・身体拘束の実態に関する予備的調査. 第30回日本精神科救急学会学術総会 2022/9/30 埼玉
7. 長谷川花，久野満津代，北舘美沙衣，一杉幸恵，鈴木早織，澤野文彦，牛島一成，杉山直也：精神科救急入院料病棟でのグループ治療におけるピア活動に伴うリカバリー志向の変化について. 第30回日本精神科救急学会学術総会 2022/9/30 埼玉
8. 北舘美沙衣，澤野文彦，久野満津代，杉山直也：措置入院者の退院後支援に関する実践報告. 第30回日本精神科救急学会学術総会 2022/10/1 埼玉
9. 平田豊明，兼行浩史，来住由樹，塚本哲司，橋本聡，花岡晋平，藤田潔，杉山直也：精神科救急医

療体制整備事業の均てん化に向けて(1)～精神科救急医療全国マップ 2020 の作成～. 第 30 回日本精神科救急学会学術総会 2022/10/1 埼玉

10. 平田豊明, 兼行浩史, 来住由樹, 塚本哲司, 橋本聡, 花岡晋平, 藤田潔, 杉山直也: 精神科救急医療体制整備事業の均てん化に向けて(2)～精神科救急医療体制整備事業の評価シート 2020 の作成～. 第 30 回日本精神科救急学会学術総会 2022/10/1 埼玉

11. 竹内晃, 久野満津代, 長谷川花, 杉山直也: ピアスタッフとして雇用されて. 第 11 回日本精神科医学会学術総会 2022/10/27 浜松

【報告書】

1. 杉山直也, 兼行浩史, 来住由樹, 塚本哲司, 野田寿恵, 花岡晋平, 平田豊明, 藤井千代, 藤田潔: 精神科医療施設における常時対応型と病院輪番型の機能の明確化. 令和 3 年度 厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業), 精神科救急医療体制整備の均てん化に資する研究 (21GC1010) (研究代表者: 杉山直也), 分担研究報告書, 2022

2. 杉山直也, 江澤和彦, 桐原尚之, 八尋光秀, 工藤正志, 中島豊爾, 藤井千代, 野田寿恵, 田口寿子, 藤田梓, 三宅美智, 石井美緒: 精神科領域における実効的な行動制限最小化の普及に関する研究. 令和 3 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (障害者政策総合研究事業), 持続可能で良質かつ適切な精神医療とモニタリング体制の確保に関する研究 (20GC2003), 分担研究報告書, 2022

沼津中央病院 (長谷川花)

【学会発表】

1. 梶浦裕治, 影山恵理, 鈴木智織, 山田信昭, 長谷川花, 牛島一成, 杉山直也, 精神科救急入院料病棟における身体拘束ゼロ化の取り組み. 第 29 回日本精神科救急学会, 2022 埼玉

2. 長谷川花, 久野満津代, 鈴木智織, 一杉幸恵, 山田信昭, 澤野文彦, 牛島一成, 杉山直也, 精神科救急入院料病棟でのグループ治療におけるピア活動に伴うリカバリー志向の変化について. 第 29 回日本精神科救急学会, 2022 埼玉

沼津中央病院 (日野耕介)

【論文発表】

1. 松本 匡洋, 日野 耕介, 臼井 健人, 津村 碧, 若山 悠介, 竹内 一郎, 稲葉 裕: 整形外科疾患による慢性疼痛を契機として自殺企図に至った 7 例. 臨床整形外科 57 巻 8 号 Page1025-1027 (2022. 08)

【学会発表】

1. 宮崎 秀仁, 日野 耕介, 伊藤 翼, 六本木 知秀, 野本 宗孝, 古野 拓, 菱本 明豊: COVID-19 流行前後での救命救急センターに入院となった自殺企図者の臨床的特徴と対応. 第 118 回日本精神神経学会学術総会 2022/6/17 福岡

2. 井上 幸代, 橋本 聡, 兼久 雅之, 日野 耕介, 河嶋 譲, 北元 健, 五明 佐也香, 庄野 昌弘, 来住由樹, 三宅 康史: 精神科救急病院における精神科身体合併症病棟の全国分布. 第 30 回日本精神科救急学会学術総会 2022/10/1 埼玉

3. 兼久 雅之, 橋本 聡, 日野 耕介, 井上 幸代, 河嶋 譲, 北元 健, 五明 佐也香, 庄野 昌弘, 来住由樹, 三宅 康史: 精神科救急病院が担う精神科身体合併症対応の現状 (MPU/CIU タイプ 3 について). 第 30 回日本精神科救急学会学術総会 2022/10/1 埼玉

4. 橋本 聡, 日野 耕介, 井上 幸代, 兼久 雅之, 河嶋 譲, 北元 健, 五明 佐也香, 庄野 昌弘, 来住由樹, 三宅 康史: 総合病院における精神科身体合併症治療病棟の全国分布について. 第 35 回日本総合病院精神医学会総会 2022/10/28 東京

V. 医療活動

[沼津中央病院グループ]

1. 概要

令和4年度は、複数病棟でクラスターの発生があり、病院にとって COVID-19 パンデミックの影響は過去最大となった。困難を極める中、根気よく適切に対応いただいた職員に敬意を表すとともに、行政のサポートに感謝申し上げる。

第4次中長期計画（平成30（2018）年～令和5（2023）年3月）の最終年度にあたり、「運営方針」を総括すると、地域のトップランナーとしての役割りを5年間維持し、包括的で良質な医療サービスを提供し続けることができたと考える。自立促進のケア理念に立脚することについて、多くを心掛けたが、その全組織的浸透には未だ課題が残る。時代に対応した組織づくりは、多くの領域で達成した実感も得られているが、さらなる向上を目指し、引き続き取り組み続けたい。

令和3年度から取り組んでいる身体拘束ゼロ化は、学会での受賞、講演会の依頼、複数の取材、厚労省の研究推進事業での紹介など、業界から大きな反響があり、県は方策の普及に向けた事業を開始した。

令和5年度からスタートする第5次中長期計画の策定に向けた準備では、改訂精神保健福祉法をふまえる中、折しも近隣同業者による不祥事の報道があり、人権意識をより強化することを計画の中に明確に位置づけた。さらに、人材を投資すべき資本として認識し、組織が一丸となって力を発揮できるよう全組織的経営を掲げた。

運営方針

「地域のトップランナーとして、自立促進のケア理念に立脚し、包括的で良質な医療サービスを提供するとともに、時代の要請に応えるべく、優良な医療・保健・福祉人材を育成し、機能的で美しく、魅力的で力強くかつ謙虚で親身な組織づくりを追求する。」

重点目標

1. 人材の育成と対応力の強化

- 1) 活気があり、雰囲気良く、業務経験機会があり、指導体制が整い、労働条件が良好な職場を実現し、好人材を引き寄せる魅力ある病院を目指す。
- 2) 働き方改革の中で、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- 3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるような職場環境を実現する。
- 4) 職域に応じて、各個人が標準化されたスキルを体得し、自ら専門性を高め、その特性長所を活かすとともに、特性課題の克服にもつながるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

2. 医療サービス向上

- 1) 地域生活を見据えたケア提供をめざし、切れ目のない包括的なサービス体制を構築する。
- 2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準の救急医療サービスを継続的に提供する。
- 3) あくまで自立促進に立脚し、当事者の権利と可能性を追求した治療理念を基本にケアを提供する。
- 4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、試行や検証等の専門研究的視点を重視し、より確かなエビデンスに基づいたサービスの提供を目指す。

3. 地域に責任を持つ

- 1) 静岡県東部の精神科医療におけるトップランナーの自覚を保ち、気概と責任感を持って当事者サービスに従事する。

2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

4. 時代に対応できる経営戦略

- 1) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的な病院経営を実現する。
- 2) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念をもって取り組む。
- 3) 目標達成のための必要業務数値を各従事者個々人が明確に意識し、ともに協力して無理なく達成できるよう準備し、組織によって取り組む。

● 事業所ごとの活動

1. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ①管理者 杉山直也
- ②病床数 270 床
- ③所在地 沼津市中瀬町 24 番 1 号 TEL055-931-4100(代)
- ④診療科 精神科・心療内科
- ⑤主な届け出受理等：精神科救急入院料 I、精神科療養病棟入院料、精神病棟入院基本料 15:1、看護補助加算 1、精神科ショートケア（大規模）、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、日本医療機能評価機構認定（機能種別版評価項目 3rdG:Ver2.0）

(2) 医療活動

(ア) 法人内外連携による地域包括ケアサービス

- ・精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談について、継続的に指定を受け、毎年、県下最多の実績を維持した。
- ・長期入院者が地域で生活できるための基盤活用（セジュール新大橋、法人内グループホームの有効活用）は、対象期間内に開設したセジュール新大橋の入居は 100%の目標に達し、維持しているが、他の施設の活用については課題が残る。
- ・アウトリーチ型サービスについて、行政事業は終了、病院型メニューは社会評価が十分でないため限定的となったが、大半は訪問看護ステーションに移行し、良好な連携により充実した。
- ・法人理念に基づき、退院支援は既存制度に、退院後支援は国や県のマニュアルに沿っていずれも積極的に取り組み、十分な数の実績をあげた。
- ・パフォーマンスの向上（適正な診療件数・ニーズへの応需）については、外来数の低下が顕著に続いており、目標数値に達しない年度があった。
- ・中断者の受診促進は従来通り行ったが、いわゆる早期介入では特段の進展はなく、未治療期間の短縮に資する活動は実施できなかった。

(イ) 多様性への対応

- ・児童思春期精神科診療（浜松医科大学、横浜市立大学との連携）については、浜松医科大学、横浜市立大学との連携を維持しつつ、院内の医療活動としても児童思春期精神科診療に注力し、漸次充実している。
- ・圏域内総合診療（圏域内地域支援病院等との診療連携 医療連携室機能の発揮）については、静岡医療センター、沼津市立病院等と良好な連携を継続し、医療連携室が機能発揮して圏域内総合診療に貢献している。
- ・治療プログラム（ぬま〜ぷ、リワーク、摂食障害、心理教育、急性期作業療法、協働意思決定（SDM:

Shared Decision Making)、フリートークの会（ピア活動）、栄養指導）については、いずれの治療プログラムも、十分な活動を行った。

- ・クロザピン治療について、計画的な新規導入を目指し、鋭意取り組んだ。
- ・修正型電気痙攣療法（m-ECT）の運用については、十分な件数を実施している。
- ・隔離・身体拘束最小化のためのコア・ストラテジー実践については、隔離・身体拘束最小化について、期内に「身体拘束ゼロ」を掲げ、プロジェクトを立ち上げ、コア・ストラテジーに基づき劇的な最小化を実現した。
- ・精神療法について、従来通り実施し、新たな進展はなかった。
- ・薬剤指導については、期内に薬剤師が減員したが、積極的に取り組んだ。
- ・準急性期（3～12 か月）におけるケアについて、個別の対応を行ったが、標準化の進展なく、今後検討の場を設けていく必要がある。
- ・持効性注射剤（LAI）の活用が増え、治療が良質化された。
- ・クリニカルパスについて、検討したものの、成果物に至らなかった。
- ・災害拠点精神科病院としての認可を受け、医師、看護師、PSW、事務員による DPAT 研修を受講し、DPAT 隊を 2 隊結成した。
- ・高齢者への対応については、実症例を通じ漸次向上できた。
- ・発達障害について、特化型専門プログラムは実現していないが、実症例を通じ通常診療の中で対応の充実が進んでいる。

(ウ) 確かなエビデンスに基づく業務実践

- ・厚生労働科学研究では、複数課題の実践・協力を行った。
- ・職域ごとの研究推進として、医師・看護師・精神保健福祉士・薬剤師・作業療法士・デイケア・事務の各領域にて外部報告を行った。
- ・精神科臨床薬学研究会の活動に参加し、薬剤使用状況の把握と適正処方の推進（薬剤総合評価調整加算の件数増加）を実施した。
- ・協働意思決定（SDM: Shared Decision Making）について研究を実施し、国際誌への投稿、国際学会での発表に続き、院内の標準ケアにも採り入れた。
- ・レジストリを活用し、種々の切り口で解析して、多くの学術活動成果を達成した。
- ・治験について、最終年の R4 年度に 1 件の契約が成立し、今後実施予定。

(エ) 人材育成と強化、活用

- ・クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク等）の標準化について、研修会参加に高い目標を設定し、100%には届かなかったが、かなり浸透している。
- ・定例研修（リスク、感染、行動制限最小化、等）について年度計画を立案、計画通り開催し、参加率を向上させた。
- ・専門上位資格の取得について、精神科専門医、精神保健指定医が複数名養成され、十分な成果を得た。
- ・効率的な業務分担について、評価に至るまでの実態把握ができなかった。
- ・働き方改革への対応として、制度開始年度までに期間があり、可能な準備を進め、無難に進捗している。
- ・精神科専門医制度における専門研修プログラム基幹研修施設について、近隣協力機関の協力のもと、募集数、登録数ともに確保できており、順調に運営している。
- ・専門性向上への支援として、OJT による取組活発だが、部署による差異がある。また公認心理師については体制整備の途上にある。
- ・ボランティアについては、パンデミック以前には活用していた。

(3) 施設設備の整備計画

(オ) 既存建物設備の維持

- ・修繕計画に基づく維持保全について、専門家による建物劣化診断を受け計画的に実施している。
- ・設備更新（空調、電気、衛生等）について、環境保全職員による自施設内完結の修理等が増えたことで、優先順位を付け計画的に行うことが可能となり、順次進めている。

(カ) 人・環境にやさしい空間の創造

- ・光庭（中庭）の整備は達成に至らなかった。
- ・芸術的要素の積極的活用に関して、担当部署を明確にすることが出来ず活用できなかった。
- ・省エネ設備について、節電のみならず職員のコスト意識が向上した。

(4) 地域貢献活動

(キ) 公的機関への協力

- ・国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請に対して、十分に応需した。
- ・大学、看護学校等への講師派遣を積極的に継続して行った。
- ・実習病院について、看護師、精神保健福祉士、作業療法士の実習を毎年受託している。
- ・他分野（企業等）との連携と貢献について、機会があれば行ってきた。

その他の活動

(ク) 情報管理の推進

- ・情報システムの適時更新に関して、電子カルテではコスト、セキュリティ、等について種々の課題が判明したが、更新自体は計画的に行った。
- ・情報データの安全管理について、外部保存等の整備を行い安全性が向上した。
- ・人工知能（AI）活用について、専門業者と検討を重ね、模索している。

(ケ) 広報活動

- ・ホームページの管理は法人本部に移管され、活用に努めたものの、十分な活用には至らなかった。

(コ) 適切な感染対策の継続

- ・複数病棟でコロナクラスターが発生したこともあり、感染対策については多大な労力を費やして実施した。必要で正確な情報取得に注力したほか、地域の活動にも積極的に参加し、一部では主導的な役割を担った。

2. 大手町クリニック

(1) 基本情報

- ①管理者 志澤 容一郎
- ②所在地 沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表 055-962-7371
- ③診療科 精神科・心療内科
- ④主な届け出受理等 精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

(2) 医療活動

- ・外来・入院間での円滑で切れ目のない医療ケアの提供を目指し、入院時の情報提供、退院前カンファレンスへの参加等を行っている。
- ・安心して医療を受けられる・提供できる環境、体制の整備を目指し、感染対策、災害対策、非常時対応等について必要な対応、シミュレーション等を行った。

- (3) 施設設備の整備計画
 - ・診療環境の継続的な改善に関して老朽化した家具等の交換を行った。
- (4) 地域貢献活動
 - ・行政、他機関等からの職員派遣の依頼に、可能な限り応じた。
- (5) その他の活動
 - ・適切な感染対策の継続として、検温、手指消毒、器物の消毒、換気等を適切に実施した。

3. あたみ中央クリニック

(1) 基本情報

- ①管理者 野田 寿恵
- ②所在地 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F 代表 0557-83-7707
- ③診療科 精神科・心療内科

(2) 医療活動

(ア) 地域ニーズを担い、スマートな医療体制

- ・適切な外来診療数の達成（健全化計画：即応、軽症者の受け入れ、患者ニーズと寄り添う）については、積極的な新患受け入れをしたが、外来診療数目標に届かなかった。
- ・感染症の流行状況に応じて、電話再診や長期処方などの収益減となる診療方法の調整を迅速に行うことにより、2022年度前期の診療人数については、2021年度前期と比較して増加した。

(イ) 高齢者への治療ケアの、スキルアップと体制充実

- ・早期認知症の診断スキルアップを図るため、長谷川式スケールのきめ細かな実施を行った。
- ・BPSDの薬物調整スキルアップについては、今後、学会、研修会の参加を促していきたい。
- ・高齢者施設スタッフとは、例年通り施設職員との情報交換等、連携を実施している。

(ウ) 勉強会・研修会の実施、地域施設の見学

- ・院外薬局と合同で、製薬会社の新薬説明会等へ参加している。
- ・社会復帰関連施設の見学については、コロナ禍のため計画できなかった。

(3) 地域貢献活動

(エ) 地域の精神保健活動への協力

- ・サポートセンターとの協働については、話し合いが必要なケースについて、相互に対面で情報交換している。

(4) その他の活動

- ・適切な感染対策の継続として、検温、手指消毒、器物の消毒等を適切に実施した。

4. 訪問看護ステーションふじみ

(1) 基本情報

- ①管理者 飯塚 香織
- ②所在地 沼津市中瀬町 2 4 番 1 号

(2) 医療活動

- ・地域包括ケアシステムも踏まえた関係機関との連携強化は、情報連携、会議の出席、相談等を実施している。
- ・自立を促し、その人らしさを支える精神科訪問看護スキルの向上については、担当制のため具体的なケアやスキルの評価がしにくい部分もあり、報告、記録、周囲からの情報により評価してい

るが、全体での勉強会は実施できなかった。

(3) 地域貢献活動

- ・行政、他機関等からのカンファレンス等の出席依頼に、可能な限り応じた。

(4) 施設設備の整備計画

- ・業者から現機種を更新デモは受けたが、令和5年度からの電算システム導入を踏まえ更新は来年度に延期した。

(5) その他の活動

- ・ルールに沿って適切な感染対策を継続し、必要な対策を十分に行いつつ訪問看護活動を実践し、感染発生なしであった。

入院・退院及び在院患者数

	期首在院数	期中入院数	期中退院数	期末在院数	期中延べ数	期中1日当たり
沼津中央病院	234	661	646	249	89,110	244.1

入院・外来取扱患者数

(定床：270床)

	入院		外来		デイケア 作業療法 (外来のみ)		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	89,756	245.9	16,080	54.7	7,865	30.1	23,945	84.8
大手町クリニック	/	/	20,372	82.8	3,650	18.4	24,022	101.2
あたみ中央クリニック	/	/	8,324	34.1	/	/	8,324	34.1

	訪問看護		作業療法 (再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	/	/	15,183	64.9
訪問看護ステーションふじみ	7,310	24.9	/	/

【鷹岡病院グループ】

1. 概要

令和4年度は、「開かれた、選ばれる医療機関」として、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」「地域の医療機関・社会資源との更なる連携」「人材の育成・確保」「病床稼働率の目標達成による安定した経営」「多様な精神疾患への対応」「訪問看護の増加」と定め、取り組んだ。また、令和4年度も令和3年度に続き「病床稼働率を上げる」が最重要課題である事を職員に周知し安定した経営を目指し職員一丸となり取り組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ①管理者：高木 啓 病床数 151床
- ②所在地：富士市天間1585番地 電話（代表）0545-71-3370
- ③診療科：精神科、心療内科
- ④主な届け出受理等：精神科救急入院料1、精神療養病棟入院料、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）

(2) 医療活動

- ① 精神科救急事業については例年どおり迅速な対応と受入れが図られている。
- ② 認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB等も交えて情報発信を行った。また、「富士市認知症初期集中支援推進事業」及び「認知症の人を皆で支える地域づくり推進事業」を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。医療連携協議会は昨年と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、WEBを用いた会議、関係機関から意見をアンケート形式で確認し書面開催も実施した。
- ③ 病床利用適正化プロジェクトチーム及び制限緩和検討チームによる取組みの継続と、入退院調整会議において病床稼働状況、在院患者数の周知徹底を図り病床稼働率の確保を行ったが、7月の職員の感染、12月から1月にかけての病棟におけるクラスター発生により計画どおりにはならなかった。
- ④ クロザリル適用患者の確保のため近隣病院への紹介患者の依頼を行った。
- ⑤ 訪問看護数の増加対策として、多職種が協働して対象患者の洗い出しを実施して、件数の増加を図った。
- ⑥ デイケア利用者の増加対策として、医師との連携により対象患者の増加を図った。
- ⑦ 行動制限最小化に向け、行動制限最小化委員会、管理運営会議等において検討を行った。
- ⑧ 病棟機能の明確化を図り、病状に合わせたスムーズな転棟及び転院を実施した。
- ⑨ 院内での事故及び高リスクの事例に対し、原因分析と有効な再発防止策の立案と確実な評価が可能となるよう体制の構築を図った。
- ⑩ 引き続き身体科救急医療機関である富士市立中央病院・富士宮市立病院や富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を図っている。
- ⑪ 昨年に続き摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。
- ⑫ うつ・自殺対策の取組みとして、富士市、富士市医師会等と連携し紹介システムの

再周知をし、また、県と連携し自殺未遂者支援ネットワークの構築を進めた。

- ⑬ クリニカルパスについては運用に留まっており、効果的な運用の検討を行った。

(3) 施設設備の整備計画

- ① デジタルラジオグラフィ更新を実施した。
- ② 電気スチームコンベクションオーブンの更新
- ③ オンライン資格確認システムの導入
- ④ 災害備蓄品の定期更新を実施した。

(4) 地域貢献活動

- ① 公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力、援助を行った。
- ② 研修医（初期、後期）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受入れを行った。
- ③ 公的機関、地域企業へのメンタルヘルス分野での協力を行った。
- ④ 天間地区福祉推進事業への協力及び地域の住民、障害者施設、老人施設、福祉推進会参加の「天間ふれあいの日」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本年度も中止とした。
- ⑤ 「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の法人活動を推進した。
- ⑥ 富士市医師会及び職能団体事業へは、人的派遣等で協力を行った。
- ⑦ 富士市地域防災医療計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。

(5) その他の活動

- ① 安否コール（災害安否確認システム）による情報伝達訓練を実施した。
- ② 働き方改革関連法に沿って取り組みの検討を継続し、有給休暇取得の奨励や、医師の日当直業務の回数等を軽減することに取り組んだ。
- ③ 「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」の資質向上については、教育研修委員会において、倫理・接遇に関連した院内研修を開催した。
- ④ 実践報告及び研究に取り組める体制を整備し、情報発信できる人材の育成に関しては「ステップアップ活動」への取組等を通じ、成果を収めている。

3. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者：石田 孜郎
- ② 所在地：富士市本町1番2-201号 電話（代表）0545-64-7655
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科デイケア（小規模）、精神科ショートケア（小規模）
精神科訪問看護

(2) 医療活動

① 新患受入れ体制の迅速化

新患枠の見直しは、昨年度同様に再診枠の空枠部分も臨機応変に受け入れ、可能な限り1ヶ月以内に診察となるようにした。待ち時間を少なくするように設定枠にも配慮した。新患診察の効率化を進める一助として、整えた問診票の再考を行い、より効率化につなげることができた。1日の平均受診患者数は、43.8人（昨年度比増減なし、目標42.0人）

- ② 多職種間連携を強化し、更なる医療の質の向上を目指す。
より緊密な多職種間の連携を図るため、毎月のクリニック会議(木曜日 16 時)での報・連・相では、デイケア利用者の状態・状況報告を行うことにした。また、必要に応じて文書回覧での意見聴取や会議室のホワイトボードを利用しての情報交換を速やかに行うことを心掛けた。
- ③ 訪問看護に関する内部研修の充実を図り、患者満足度の向上を目指す
訪問看護部門では内部研修で訪問看護師が求められているものを再認識した。事例検討した資料で得た知識を日々の訪問看護に活かすように心がけた。患者情報を各自分かりやすくまとめ、看護師間で共有を図り、他の患者でも迅速に対応することで患者の満足度向上に努めた。
- ④ デイケアにおいては、季節を感じる行事を実施
11月にクリスマス会の企画を計画し、メンバーの意見を取り入れて実施した。計7回の季節行事を実施した。花見では直接季節を感じ、メンバー同士で気持ちを共有でき、ハロウィンでは装飾した袋にお菓子を入れて持ち帰り行事を家族と共有することができた。
- ⑤ 心理検査の拡充（診断補助システムの円滑化と発達障害診断のプログラム C-PACK の実施）
発達障害の診断を希望する新患ケースが増えており、心理部門での対応が急速に増加したが、デイケア観察や訪問看護等を組み込んでの診断治療を行う C-PACK のケースは無かった。

(3) 施設設備の整備計画

- ① 院内ブラインドの交換
令和4年10月に診察室及び外来待合室のブラインドの一部（劣化した部分）を交換した。
- ② シュレッダーの更新
現在、検討中であり、次年度に持ち越すことになった。

(4) その他の活動

- ① 接遇・院内外との連携の更なる充実とフィードバックの徹底
接遇に関しては、概ね昨年度と同程度の患者側評価であり、満足以上の回答率は7割を超え、職員の対応については、「大変不満」の割合は無くなった。ただ、電話対応では「不満」の回答率が増加していたため、次年度の課題となる。
- ② ISO9001（令和1年に終了）でのノウハウを活用し効果的な運用
ISOで培ったノウハウを参考に、当クリニックの業務マニュアルを作成した。また、昨年度と同様に、医療の質や患者満足度の向上に努めた。
- ③ ホームページの充実
ホームページを活用し、新患診察の効率化を進める一助として初診問診票を載せ、新患診察の効率化を図ることが出来た。次年度からホームページがリニューアルされることもあり、当クリニックでの活動や地域との連携を踏まえた情報の掲載等、更なるホームページの充実を図ることが次年度の課題となる。
- ④ 他医療機関との連携の更なる充実
紹介システムの再周知及び他医療機関からの患者紹介やデイケア受け入れに関して迅速に対応した。他医療機関からの紹介は62件、うち紹介システムでは3件であった。

入院・外来取扱患者数

	入 院		外 来		デイケア		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹 岡 病 院	41,799	114.5	23,674	80.5	5,560	22.5	29,234	99.4
富士メンタルクリニック			12,878	43.8	2,618	10.7	15,496	52.7

訪問看護・作業療法取扱患者数

	訪問看護		作業療法	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹 岡 病 院	938	3.2	7,476	28.4
富士メンタルクリニック	112	0.4		

[沼津リハビリテーション病院グループ]

1. 概要

令和4年度における事業経過の要点は以下の通りである。

- 1) 新型コロナウイルス感染症 COVID19 の院内クラスター発生により、入退院制限を行わざるを得ず、一定期間の病床利用率低下が避けられなかった。
- 2) 急性期病院においても COVID19 クラスター院内発生が頻発し、このため当院への転入院患者数が一定期間激減した。
- 3) 1)2)により、病院における入院収入が著明に減少することとなった。
- 4) 当院および急性期病院における COVID19 クラスター解消の後、当院の病床利用率回復は、2病棟間で大きな差異を生じた。
- 5) 回復期リハビリテーション病棟においては順調な回復が得られ、回復後の病床利用率は概ね 90 %を維持することができた。
- 6) 一方医療療養病棟においては、利用率回復が得られず、その原因を COVID19 のみに求めることはできない。この点に関して、次年度においては医療療養病棟の在り方の再検討が要請される。
- 7) 訪問看護ステーションに関しては、人員不足の中概ね順調な事業達成が得られた。
- 8) 通所リハビリテーション事業に関しては、利用者数の伸び悩みが続き、今後の在り方を再検討する必要があるかもしれない。
- 9) 前年度から引き続き、医師1名の欠員により回復期リハビリテーション病棟の加算請求が行えていない状況にあった。

これらの帰結として、年度医業収入の大幅な減少となった点は大いに反省すべきと考える。医療療養病棟に関しては、受け入れ患者層の再検討・入院患者の層別化対応などを検討する方針である。

次年度は医師1名の確保が決定しているが、病床利用率の高値維持とともに リハビリテーション単位のアップ・業務の効率化などが必要と考える。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹 病床数：106 床
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ③ 診療科：リハビリテーション科、内科、神経内科、消化器内科
- ④ 主な届出受理等：回復期リハビリテーション病棟入院料
療養病棟入院基本料
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハ病棟の機能維持・向上

脳卒中パス、骨折パスでの紹介ケースに対し、待機期間の短縮に努めた。回復期病床稼働率 84.3%、コロナのクラスター発生による入院受け入れ停止や急性期への急な転院が 15 件/年あった。FIM や ICF を元に作成した退院支援アセスメントシートを活用したカンファレンスを実施し、具体的な機能回復の目標をあげケア介入した。在宅復帰率 81.77%。認知症ケアについての勉強会を実施し、対応力の向上を図った。退院日を1ヶ月以上前に決定できるようパスシートを活用した。連携室と情報共有をし、情報提供を行っている。

② 医療療養病棟の機能改善

入院患者に対し、多職種カンファレンスの実施にて患者の全体像を共有し、ケア・処遇を検討、タイムリーな支援に繋げることができた。また、地域との連携も図り、計画的な入院（薬剤調整・リハビリ・レスパイト）に繋げることができた。在宅・急性期間問わず積極的に入院患者を受け入れ、退院支援シートに沿って退院支援を実施し、ケアの向上を図った。医療区分 2.3 の割合は 93.87% と維持できた。回復期リハ非対象患者の受け入れ、急性期病院からの医療度の高い患者、難病患者の受け入れに努めた。

(3) 施設設備の整備

感染対策として、新型コロナウイルス感染症の院内発生に備え簡易陰圧装置を購入した。外構整備は未実施。経年劣化していた TV 付床頭台と病室家具を新しく入れ替えた。また、2 階病棟外壁漏水工事と 1 階病棟廊下結露対策工事を実施した。

(4) 地域貢献活動

沼津市が実施する新型コロナワクチン接種に協力し、集団接種や個別接種のほか高齢者施設に向いての接種も行った。一次救急輪番への協力、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）研究への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において研修会を実施し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

(5) その他の活動

人材確保については常に課題として取り組んでいるが十分な結果は得られていない。多職種による入院受け入れ業務の再構築により業務の効率化を目指し、看護師から多職種へのタスクシフトシェアに取り組んでいる。今後、医師から看護師へのタスクシフトシェアに取り組む。QC サークルの活動、法人の研究発表会へも参加した。災害対策については、マニュアル更新などさらに継続して実効的な対策を進めていく。電子カルテ及び院内情報等における DX (Digital Transformation) の導入について検討を進めていく。

3. 訪問看護ステーションうしづせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

24 時間の緊急対応を維持し、医療機関や在宅医、その他サービス事業所との連携により、在宅医療の推進に努めた。高齢者だけでなく小児の訪問看護も実施し、小児利用者の生活に合わせ、時間外の定期訪問へも対応した。

(3) 地域貢献活動

看護学校実習を受入れ、訪問看護の周知に努めた。

入退院及び在院患者数

(定床：106床)

入院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1日当(人/日)
医療	94	262	267	89	32,066	87.9

外来取扱患者数

外来		通所リハビリ		訪問リハビリ	
期中延	1日当(人/日)	期中延	1日当(人/日)	期中延	1日当(人/日)
7,808	31.9	4,939	16.0	0	0.0

訪問看護ステーションうしぶせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1日当(人/日)
医療	1,653	5.3
介護	3,830	12.3
計	5,483	17.6

VI. 福祉活動

[本部・社会復帰事業部]

1. 概要

令和4年度本部においては(1)「法人の規模・特性を生かした組織力の強化」(2)「分散化・非効率面を改善し、経営管理態勢を強化」(3)「本部職員のスキルアップと意識改革により信頼される本部を目指す」の3項目を運営方針に掲げ、コロナ禍が続く厳しい経営環境の中で業績改善に取り組んできた。

法人全体の最重要課題だった「事業計画を着実に実践し、目標を達成する」については、2期連続の黒字達成とともに予算を上回る事ができた。

業績回復の要因は、直接的にはクラスター等コロナ感染者の発生による患者数の減少を、各種補助金収入等でカバーできたことによるが、根底には職員への事業計画・予算達成に対する意識が浸透し、職員全員が業績改善に対する意欲を共有できたことが要因である。

本部として、各病院や事業所に対し「経営の見える化」を継続して情報発信し、PDCAサイクルを回すことを実践した。

社会復帰事業部においては、令和4年度は職員のコロナ感染が広がり就労事業所で約1週間休業となったが、事業所間での連携、それぞれの事業所での努力により拡大することなく大きな山を越える事が出来た。

共同生活援助事業の一部廃止や届出事業が運用に至らなかった等、運営としてはマイナスとなる状況があり、地域のニーズや利用者の思いと事業所運営のバランスの難しさを感じている。人材については、今年度も新規職員の確保に苦労した1年でありリクルートの体制整備は出来なかったが、次年度は「ここで働き続けたい」と思っていただけの事業部作りを行っていききたい。

2. 本部事務局

(1) ガバナンス強化と予算実績進捗管理の深化

前月の各病院等の業績速報を報告・情報共有するとともに、課題や改善策を検討する場として、毎月の経営会議の機能強化が図れた。

(2) システム化の推進

長年の懸案事項である「勤怠管理システム」の導入については、「人事・給与システム」も含めて更改作業が着実に進展し、令和5年下期には新システム稼働の予定である。

併せて、ホームページのリニューアルについては、スマホ対応や更新における特殊技能が不要なCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)の導入し、令和5年3月に全面リニューアルした。

(3) 適正な人員配置の見直し

事務局として、本部と支部との良好な人間関係を図りつつ、本部と病院間での事務職員の人事交流を積極的進めた。次年度についても引き続き人事交流を推進していききたい。

(4) 経費削減

物品購入の廉価な物への代替えや見積合わせの徹底により、コスト意識が醸成されたことで物件費の圧縮が図れた。今後は、物品の共同購入や共同化を推し進めていききたい。

3. 社会復帰事業部

1) 相談支援事業

引き続き各市町からの委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・ゆめワーク・ほっと・いとう・ひまりの5事業所で実施。令和4年度も計画相談の対応件数は軒並み増加し、普段業務内での個別支援の中心的な位置づけとなっている。限られた時間の中で効果的に業務を展開する上では常に創意工夫が必要となるため、事業所内・法人内で情報共有し従来の動きにとらわれない視点を意識して取り組んだ。また障害福祉サービス事業所の数も増加傾向は続き、多少の地域

差はあるものの実情としては数年前と比較して大きく変化している。各市町で整備されている基幹相談支援センターを中心に、新規参入している他法人支援者も含めた人材育成の視点を地域の枠組みの中で持ち、専門職として携わる当法人相談支援専門員はその中心的な役割を担っていく必要がある。ピアサポーター（スタッフ）に関わる動きとしても引き続き県・圏域・市町それぞれの枠組みの中で他機関と協働し、体制整備と個別支援を並行して取り組んでいきたい。

2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターいとうの2箇所で実施。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、利用時間や人数、活動プログラム等で制限せざるを得ない状況であった。しかし、両センターともに利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や、料理教室、清掃活動などの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組んできた。また、昨年度に引き続き、社会復帰事業部内の就労支援事業所、地域活動支援センター等の合同企画として、第2回文化祭「秋ふく祭」を開催。地域活動支援センターの利用者も各々絵や書道などの作品を制作・出展されるなど、一つのイベントに向けて利用者や職員が一丸となれたように感じる。今後は今まで以上にピアスタッフとの協働を意識し、当事者主体による取り組みを行い、地域行事への参加、ボランティア育成等、地域に開かれたセンター運営に努めていきたい。

3) 共同生活援助事業

グループホームコーポ狩野・はまゆう寮・カーサ岡宮・ふじみ・ふじみⅡの5か所で実施。ふじみⅡは令和4年8月に利用者減少により閉所。コロナ禍における新しい生活スタイルが標準化しつつも、利用者・職員に対しては継続して感染拡大回避の対応をせざるを得なかった。また、利用者の変化（病状・年齢や障害程度）に合わせた支援展開が必要な場面が増え、地域の他事業所と情報共有や連携・相談をしながら適切な支援ができるように努めた。

今後も生活の場として安心できる生活環境づくり、地域や利用者のニーズに合わせた支援を行えるようにスタッフの資質向上・支援の担保にも努めていきたい。

4) 就労支援事業

東部圏域（沼津・三島・伊豆の国）3カ所で就労継続支援B型事業を実施。伊豆市・伊豆の国市を筆頭にこれまで同様各地域に様々な就労支援事業所が開設され、その中で選ばれる事業所となるよう、地域や利用者のニーズを把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。一昨年度の食事提供加算の導入に続き、利用日数に応じた奨励手当金の支給を開始し、他事業所とのサービスの格差縮小と共に利用者の意欲向上へ繋げた。

今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、授産製品の販売機会の自粛やイベント中止等の対応や感染拡大による事業所閉鎖対応を余儀なくされた。日中の居場所としての機能も果たしていることから、感染防止対策を徹底し事業継続に努めた。

今後も、一般就労への支援や利用者・家族の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者には選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

地域貢献活動

- 1) 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。
- 2) 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市、長泉町地域自立支援協議会の運営に協力した。
- 3) 沼津市、伊豆の国市から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- 4) 伊東市、熱海市、伊豆市・伊豆の国市、清水町、裾野市の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。

相談・訪問件数（延件数）

（令和4年4月～令和5年3月）

	来 所	電 話	訪 問	その他	合 計
ゆめワーク	469	1,717	913	1,565	4,664
なかせ	133	1,672	899	3,153	5,857
ひまり	270	938	1,031	2,959	5,198
いとう	803	5,549	954	2,904	10,210
ほっと	52	981	783	1,206	3,022
合 計	1,727	10,857	4,580	11,787	28,951

地域活動支援利用状況（延人数）

（令和4年4月～令和5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめ	111	78	93	82	87	108	94	78	88	94	98	92	1,103
いとう	174	184	172	170	148	134	172	166	165	152	150	154	1,941
合計	285	262	265	252	235	242	266	244	253	246	248	246	3,044

グループホーム利用状況

（令和5年3月31日現在）

施設名	定員	出身市町												合計	
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	熱海	伊豆	伊豆の国	長泉	清水		湯河原
ふじみ	10	6			1			1							8
ふじみⅡ	5	1						1							2
カーサ岡の宮	10		4	2			1							1	8
はまゆう	9		2	1		1	2		1			1			9
コーポ 狩野	18	1	3	1	1		3			1	3	1	2		16

*ふじみⅡについては令和4年7月末の利用状況

就労支援事業所かのん利用状況

（令和4年4月～令和5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	52	52	51	51	50	49	51	51	51	50	50	47	
開所日数	24	22	25	24	17	20	24	23	23	22	21	25	270
実人数	48	48	47	47	43	45	45	44	46	45	46	46	
延人数	537	510	553	496	366	424	504	519	528	486	465	570	5,958
1日平均	22.4	23.2	22.1	20.7	21.5	21.2	21.0	22.6	23.0	22.1	22.1	22.8	22.1

就労支援事業所ワークショップまごころ利用状況

（令和4年4月～令和5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	39	38	38	39	39	40	41	42	42	42	43	38	
開所日数	25	22	26	25	23	24	25	26	25	23	22	26	292
実人数	29	28	28	29	29	30	31	31	32	31	32	32	
延人数	351	338	370	370	347	382	389	373	416	373	372	423	4,504
1日平均	14.0	15.4	14.2	14.8	15.1	15.9	15.6	14.3	16.6	16.2	16.9	16.3	15.4

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

(令和4年4月～令和5年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	22	22	22	20	20	21	21	21	21	21	21	19	
開所日数	20	19	22	20	19	20	21	21	22	21	19	22	246
実人数	18	18	17	15	16	18	17	17	17	17	18	18	
延人数	227	216	224	182	180	221	221	223	240	217	223	268	2,642
1日平均	11.4	11.4	10.2	9.1	9.5	11.1	10.5	10.6	10.9	10.3	11.7	12.2	10.7

以上

VII. 地域貢献活動

〔1〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2022/4/19	Web 講習会	双極性障害の薬物療法	鈴木 智 規	中部精神科薬剤師研究会/大塚製薬
2022/5/21	あざれあ	日精看静岡県支部研修会講師 「私のリカバリーストーリー」	竹 内 晃 久野満津代	日本精神科看護協会静岡県支部
2022/5/24	プラザヴェルデ (Paliperidone Web セミナー)	国家的規模の臨床データからわかること～Real World Data のかつよ うと意義	杉 山 直 也	ヤンセンファーマ株式会社
2022/6/25	静岡県庁別館 5 階 危機管理センター	令和 4 年度 D P A T 研修	常 盤 克 美	
2022/7/1	TKP ガーデンシティ横浜 (救急-精神科医療セミナー vol. 1)	精神疾患治療の向上	日 野 耕 介	住友ファーマ株式会社
2022/8/10	あざれあ	令和 4 年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 基礎研修講師	久野満津代 竹 内 晃	静岡県
2022/8/21	web	自殺未遂者ケアオンライン研修 (一般救急版)	日 野 耕 介	厚生労働大臣指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター
2022/9/7	web	医療安全管理者講習	麻 場 英 聖	日本精神科看護協会
2022/9/28	web	医療安全管理者講習	牛 島 一 成	日本精神科看護協会
2022/10/6	伊東市役所	ピアの活動について	竹 内 晃 久野満津代	熱海伊東圏域地域移行部会
2022/10/14	こころの医療センター駒ヶ根 (第 9 回甲信精神科懇話会)	精神科救急の今後について	杉 山 直 也	大日本住友製薬株式会社
2022/10/18	リバーサイドホテル沼津 (精神科行動制限最小化について考える)	精神科領域における実効的な行動制限最小化方法の普及について	杉 山 直 也	住友ファーマ株式会社
2022/11/2	ホテルグリーンパーク津 (HOPE in SCHIZOPHRENIA ゼプリオン TRI 発売 2 周年記念)	国家的規模の臨床データからわかること～RealWorldData の活用と意義	杉 山 直 也	ヤンセンファーマ株式会社
2022/11/11	宮崎県精神保健福祉センター	宮崎県自殺未遂者ケア研修	日 野 耕 介	宮崎県
2022/11/15	もくせい会館	令和 4 年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 専門研修講師	竹 内 晃 久野満津代	静岡県
2022/11/18	三島商工会議所 (双極性障害 Web 講演会)	精神科救急における双極性障害治療の実際～SMD の試みも含めて～	長 谷 川 花	共和薬品工業株式会社
2022/11/25	web	医療安全推進フォーラム	牛 島 一 成	日本精神科看護協会
2022/12/5	三島市社会福祉協議会	令和 4 年度 駿東田方圏域「ピア MEETS ピア」 三島会場 講師	竹 内 晃 久野満津代	駿東田方圏域地域移行部会
2023/1/12	沼津リバーサイドホテル (YCU for next-generation)	行動制限最小化と拘束ゼロを目指して	杉 山 直 也	住友ファーマ株式会社
2023/1/12	沼津リバーサイドホテル (YCU for next-generation)	臨床現場における統合失調症の実際～症例を踏まえて～	日 野 耕 介	住友ファーマ株式会社
2023/1/25	御殿場市役所	令和 4 年度駿東田方圏域「ピア MEETS ピア」 御殿場会場 講師	竹 内 晃 久野満津代	駿東田方圏域地域移行部会
2023/1/25	Uホール	精神障害の特性理解と支援技法	澤 野 文 彦	浜松市
2023/1/28	静岡県男女共同参画センター	日精看初任者研修 I	牛 島 一 成	日本精神科看護協会静岡県支部

2023/1/29 2/3	あざれあ web	自殺未遂者のケア -病院前救護 の現場からできること	日野 耕 介	東京都福祉保健局保健政策部健 康推進課
2023/2/8	賀茂健康福祉センター	親亡き後のことについて	澤野 文 彦	賀茂地域精神障害者家族会（あ したば会）
2023/2/10	web 開催 (TRI Webinar Spread the circle)	うつ病から自分を取り戻す治療～ SDM の試みも交えて	長谷川 花	武田薬品工業株式会社
2023/2/10	もくせい会館	令和 4 年度静岡県精神障害者ピア サポート研修 フォローアップ研 修 講師	久野 満 津 代	静岡県
2023/2/21	沼津リバーサイドホテル (精神科救急医療 web セミナー in 北関東)	今後の日本精神科救急学会の動向	杉山 直 也	住友ファーマ株式会社
2023/2/21	WEB 開催	小田原市精神障害者ピアサポート 事業研修会 講師	竹 内 晃	小田原市ピアサポート連絡会
2023/2/28	WEB 開催	療養生活継続支援加算について	澤野 文 彦	静岡県精神保健福祉士協会
2023/3/3	富山県民会館	精神障害者の特性理解と支援技法	澤野 文 彦	富山県

鷹岡病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2022/5/14	静岡県男女共同参画センター あざれあ	保健・医療・福祉サービス提供シ ステムと多職種との連携	山口 雅 弘	一般社団法人静岡県訪問看護ス テーション協議会
2022/9/13	WEB 開催	精神障がい者の理解	山口 雅 弘	静岡県 CSW 研究会
2023/1/24	県立沼津特別支援学校愛鷹分 校	成年後見制度について	山口 雅 弘	社会福祉法人静岡県社会福祉協 議会
2023/2/13	静岡県医師会館	令和 4 年度認知症初期集中支援チ ーム員現任者研修会	水野 拓 二 川村 明 広	静岡県健康福祉部福祉長寿政策 課地域包括ケア推進班
2023/3/2	ロゼシアター	こころの健康づくり講演会～「不 安に向き合うためのポイント」	久保 伸 年	富士市障害福祉課

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2022/5/8	西伊豆町	集団での口腔運動と言語訓練	渡邊 美 礼	静岡県言語聴覚士会
2022/9/26	我入道稲荷町自治会館	介護予防教室フレイル予防と運動	山田 純 平	沼津市長寿福祉課
2022/10/6	第三地区センター	転倒予防と自宅でできる運動	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
2022/10/19	Web 研修会	はじめての症例発表！～なぜ発表 するの？～	西 島 勇	静岡県理学療法士会 研究支援系専門部会
2022/11/14		高齢期の社会参加	野田 真 帆	沼津市長寿福祉課
2023/1/18	ピット 28, Web	神奈川県西地区におけるリハビリ テーション専門職（団体）の取り 組み～地域の多職種との連携～	リハビリテー ション 課	駿東田方圏域リハビリテーショ ン強化推進事業（静岡県東部保 健所）
2023/1/21	プラサヴェルデ	自立支援型地域ケア個別会議のあ り方を考えよう「理学療法士の立 場から」	西 島 勇	駿東田方圏域リハビリテーショ ン強化推進事業（静岡県東部保 健所）
2022/10/26	くるらの家	運動の必要性和自宅でできる運動	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
2023/2/1				

2023/2/19	Web 研修会	地域におけるリハビリ専門職派遣の活動報告	西 島 勇	静岡県理学療法士会
-----------	---------	----------------------	-------	-----------

訪問看護ステーションうしづせ

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2022/11/28	Web セミナー	第2回 がん薬物療法安全対策セミナー	松 川 香 織	中外製薬株式会社
2022/12/10	プラサヴェルデ	県民フォーラム「あなたに知ってほしい。在宅医療・ケアのこと」	松 川 香 織	静岡県訪問看護ステーション協議会

訪問看護ステーションふじみ

年月日	実施場所	テーマ	司会	主催又は後援
2022/6/18	静岡県総合社会福祉会館	令和4年度精神科訪問看護研修(精神科訪問看護基本療養費算定要件となる研修)	飯 塚 香 織	静岡県訪問看護ステーション協議会

社会復帰事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2022/6/17	オンライン	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴木 伸 二 石 川 淳 山 崎 将 展	精神保健福祉センター
2022/8/10	あざれあ	令和4年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 基礎研修講師	石 川 淳 山 崎 将 展	静岡県
2022/9/3	熱海市社会福祉協議会	熱海市市民後見人養成講座	秋 津 崇 史	熱海市社会福祉協議会
2022/11/2	伊東市役所	伊東市ゲートキーパー養成研修	石 田 由 貴	伊東市健康推進課
2022/11/11	伊東市社会福祉協議会	伊東市市民後見人養成講座	秋 津 崇 史	伊東市社会福祉協議会
2022/11/15	もくせい会館	令和4年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 専門研修	石 川 淳 山 崎 将 展	静岡県
2022/11/19	伊豆の国市役所大仁支所	伊豆の国市メンタルヘルス懇話会	武 井 紗 知	
2022/12/5	三島市社会福祉協議会	令和4年度駿東田方圏域「ピアMEETS ピア」三島会場	石 川 淳 山 崎 将 展	伊豆の国市地域自立支援協議会 駿東田方圏域地域移行部会
2023/1/25	御殿場市役所	令和4年度駿東田方圏域「ピアMEETS ピア」御殿場会場	石 川 淳 山 崎 将 展	駿東田方圏域地域移行部会
2023/2/10	もくせい会館	令和4年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修	石 川 淳 山 崎 将 展	静岡県
2023/3/14	静岡県東部総合庁舎	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会研修会	鈴木 伸 二 山 田 典 子	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会
2023/3/24	伊豆の国市役所くぬぎ会館	伊豆の国市春の小学生福祉講座	小山 千 菜 美 武 井 紗 知	伊豆の国市社会福祉協議会

〔2〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼 津 中 央 病 院	(福)高尾園 春風会 (福)野菊寮 (福)ほほえみ&みのり工房 静香会 (福)悠雲寮 静香会 (福)遊法苑 宏寿会 名古屋国税局 精神科専門医 社会福祉法人ミルトス会 駿東学園	道 部 晃 梶 本 光 要 浅 倉 博 幸 梶 本 光 要 大 原 佑 生 坂 晶 浅 倉 博 幸
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	沼津工業高等専門学校 職員精神保健相談(静岡県) 静岡県警察本部	志 澤 容 一 郎 志 澤 容 一 郎 志 澤 容 一 郎
鷹 岡 病 院	(株)東芝キャリア 三生医薬 (株)	高 木 啓 高 木 啓
沼津リハビリテーション病院	(福)信愛会 んまづホーム (福)信愛会 和みの郷	杉 山 元 信 杉 山 元 信

〔3〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼 津 中 央 病 院	国際医療福祉大学保健医療学部作業療法学科 御殿場看護学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 静岡県立大学看護学部 静岡福祉大学 順天堂大学保健看護学部 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科 日本精神科看護協会認定実習指定施設 沼津市立看護専門学校
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	沼津市立看護専門学校
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校 静岡県立看護専門学校 第2学科 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション部 作業療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 静岡福祉大学 社会福祉学部 福祉心理学科 静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科
沼津リハビリテーション病院	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 常葉大学 健康科学部 静岡理学療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科 静岡東都医療専門学校 理学療法学科 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科・作業療法学科 専門学校 中央医療健康大学校 理学療法学科

	静岡医療科学専門学校 理学療法学科 静岡県立田方農業高等学校 職業体験（作業療法） 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 順天堂大学 保健看護学科
訪問看護ステーションうしぶせ	静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校
社会復帰事業部	順天堂大学 保健看護学部 静岡福祉大学 社会福祉学部 聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部 静岡医療センター附属静岡看護学校 御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校 静岡県立看護専門学校 静岡県立沼津特別支援学校

〔４〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼 津 中 央 病 院	御殿場看護学校	飯塚香織、牛島一成、 小林久美子
	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属看護学校	神野恭輔 山下大翔 葛城芳弘
	静岡県立看護専門学校	麻場英聖、市川容代、 今井亮太、小嶋有美
	静岡県立看護専門学校	小嶋有美
	静岡県立大学看護学部	麻場英聖
	静岡福祉大学	澤野文彦
	沼津市立看護専門学校	麻場英聖、飯塚香織、今井亮太
大手町クリニック	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	葛城 芳弘
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校	曾根満寿代、渡辺睦子、 久保伸年
	〃	曾根満寿代
	JA 静岡厚生連するが看護専門学校	久保伸年
	静岡英和学院大学	山口雅弘、小山隆太
	健康科学大学	山口雅弘
日本福祉大学		
富士メンタルクリニック	富士市立看護専門学校	鈴木順一
沼津リハビリテーション病院	専門学校 中央医療健康大学校 理学療法学科	西島勇
	静岡東都医療専門学校 理学療法学科	西島勇
	富士リハビリテーション大学校 理学療法学科	白井伸洋

訪問看護ステーション う し ぶ せ	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	松川香織
訪問看護ステーション ふ じ み	御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校	飯塚香織 飯塚香織
社会復帰事業部	沼津市立看護専門学校 東都大学沼津ヒューマンケア学部	青木大輔、山下圭美 鈴木伸二、石川淳、山崎将展

〔5〕 関連諸団体の活動 (管理者のみ)

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼 津 中 央 病 院	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部	客 員 研 究 員	杉 山 直 也
	静岡医療センター地域医療支援病院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県精神科救急医療研究会	世 話 人	杉 山 直 也
	静岡県精神科病院協会	理 事	杉 山 直 也
	静岡県精神保健福祉協会	評 議 員	杉 山 直 也
	静岡県東部精神科医会	代 表 世 話 人	杉 山 直 也
	地方公務員災害補償基金静岡支部	相 談 医	杉 山 直 也
	日本医療機能評価機構 検討会	委 員	杉 山 直 也
	日本自殺予防学会	理 事	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会	理事長、理事、 評 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 医療政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 教育研修委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 認定医制度委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会	代 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会 政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院・静岡医療センター合同地域医療支援病 院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院地域医療連携推進委員会	委 員	杉 山 直 也
	横浜市立大学	客 員 教 授	杉 山 直 也
日本精神科看護協会静岡県支部	支 部 長	牛 島 一 成	
静岡県病院薬剤師会	評 議 員	秋 山 和 美	
静岡県病院薬剤師会	精神科学術委員	秋 山 和 美	
日本精神科救急学会	代 議 員	飯 塚 香 織	
鷹 岡 病 院	静岡県精神保健福祉協会	常 務 理 事	石 田 多 嘉 子
	静岡県障害者スポーツ協会	評 議 員	石 田 多 嘉 子
	認知症のひと家族の会静岡支部	顧 問	高 木 啓
	富士市医師会	監 事	高 木 啓
ユニバーサル就労を拓げる会	顧 問	高 木 啓	
沼津リハビリテーション病院	静岡県東部看護管理者会	役員	豊 永 美 幸
あ た み 中 央 ク リ ニ ッ ク	静岡県看護協会 熱海・伊東地区支部会議	関係職員	葛 城 芳 弘
	静岡県看護協会 「看護の日・週間」記念行事	関係職員	葛 城 芳 弘
	静岡県看護協会 熱海・伊東地区支部会議	関係職員	葛 城 芳 弘

	・災害者地区研修会、役員会参加 静岡県看護協会 第3回熱海・伊東地区支部役員会 静岡県看護協会 熱海・伊東地区支部会議 静岡県看護協会 熱海・伊東地区支部集会 ・実践報告会、役員会参加	関係職員 関係職員 関係職員	葛城 芳 弘 葛城 芳 弘 葛城 芳 弘
--	--	----------------------	----------------------------

[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
DPAT 運営協議会	委 員	厚生労働省委託業務 DPAT 事務局	杉 山 直 也
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県公安委員会	認 定 医	静岡県公安委員会	杉 山 直 也
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県措置入院適正運営協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
清水町自殺対策推進連絡協議会	会 長 、 委 員	清水町福祉介護課	杉 山 直 也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会委員	杉 山 直 也
駿東田方圏域保険医療協議会	委 員	駿東田方圏域保険医療協議会	杉 山 直 也
駿東田方構想区域地域医療構想調整会議	委 員	東部健康福祉センター	杉 山 直 也
精神科医会	会 長	沼津医師会	杉 山 直 也
措置入院適正運営協議会 熱海保健所部会	委 員	静岡県熱海保健所	杉 山 直 也
措置入院適正運営協議会 東部保健所部会	委 員	静岡県東部保健所	杉 山 直 也
認知症対策委員会	委 員	沼津医師会	杉 山 直 也
沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会	構 成 員	独立行政法人労働者健康安全機構静岡産業保健総合支援センター	杉 山 直 也
沼津市自殺対策連絡会	ア ド バ イ ザ ー	沼津市健康づくり課成人保健係	杉 山 直 也
ふじのくに地域医療支援センター東部支部	運 営 委 員	ふじのくに地域医療支援センター東部支部	杉 山 直 也
静岡県公安委員会	認 定 医	静岡県公安委員会	長 谷 川 花
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	長 谷 川 花
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	沼津警察署	長 谷 川 花
沼津市就学支援委員会	委 員	沼津市教育委員会	長 谷 川 花
横浜市救急相談業務運用部会	委 員	横浜市	日 野 耕 介
自殺未遂者支援事例検討会	ス ー パ ー バ イ ザ ー	東京都杉並区	日 野 耕 介
COVID-19 流行期における PEEC コース再開のための小委員会	委 員 長	日本臨床救急医学会	日 野 耕 介
教育研修委員会	委 員	日本臨床救急医学会	日 野 耕 介
自殺企図者のケアに関する検討委員会	委 員	日本臨床救急医学会	日 野 耕 介
病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるためのワーキンググループ	委 員	日本臨床救急医学会	日 野 耕 介
自殺企図者のレジストリ運営ワーキンググループ	委 員	日本臨床救急医学会	日 野 耕 介
妊産婦の自殺予防のためのワーキンググループ	委 員	日本臨床救急医学会	日 野 耕 介

救急医療連携推進小委員会	委 員	日本精神科救急学会	日 野 耕 介
身体科救急連携委員会	委 員	日本総合病院精神医学会	日 野 耕 介
自殺問題委員会	委 員	日本総合病院精神医学会	坂 晶
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆市事務所	坂 晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆の国市福祉事務所	坂 晶
小山町老人ホーム入所判定部会	委 員	駿東郡小山町事務所	坂 晶
函南町老人ホーム入所判定部会	委 員	函南町事務所	坂 晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委 員	清水町事務所	坂 晶
裾野市老人ホーム入所判定部会	委 員	裾野市福祉事務所	坂 晶
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	嘱 託 医	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委 員	長泉町事務所	坂 晶
ふじのくに感染症専門医協働チーム	コアメンバー	静岡県感染対策担当部新型コロナ対策企画課	志澤 容一郎
学生生活支援室専門職会議でのアドバイス	精 神 科 医 師	沼津工業高等専門学校	志澤 容一郎
静岡県警察本部職場復帰相談	相 談 医	静岡県警察本部	志澤 容一郎
静岡県職員健康相談（メンタルヘルス）	非 常 勤 健 康 相 談 員	静岡県	麻 場 英 聖
認定試験小委員	委 員	日本精神科看護協会	鈴 木 順 子
役員	幹 事	日本精神科看護協会静岡県支部	竹 内 晃
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
静岡県人権会議	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
沼津市障害支援区分判定審査会	会 長	沼津市障害福祉課	澤 野 文 彦
沼津市自立支援協議会地域移行専門部会	部 会 長	沼津市障害福祉課	澤 野 文 彦
ふじのくに健康増進計画推進協議会「休養・こころ部会」	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
精神科救急医療システム連絡調整委員会	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
静岡県措置入院適正運営協議会	委 員	静岡県	久野満津代
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県	久野満津代
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	構 成 員	静岡県東部健康福祉センター	北 舘 美 沙 依
熱海伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県熱海健康福祉センター	北 舘 美 沙 依
清水町障害者自立支援協議会	委 員	清水町	田 畑 久 美
診療報酬委員会	委 員	全国医事研究会	田 畑 久 美
診療報酬作業小委員会	特 別 委 員	日本病院会	田 畑 久 美

鷹岡病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県精神保健福祉審議会	会 長	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石 田 多 嘉 子
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県DPAT連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	協 議 員	静岡保護観察所	高 木 啓
静岡地方労災医員	医 員	静岡労働局	高 木 啓
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委 員	富士市医師会	高 木 啓
第三次富士市DV対策基本計画策定懇話会	委 員	富士市福祉部生活支援課	石 田 多 嘉 子
富士市生活保護法審査会	委 員	富士市福祉部福祉総務課	石 田 多 嘉 子

富士市老人ホーム入所判定委員会	委員	富士市福祉部高齢者支援課	高木啓
富士市認知症施策推進検討委員会	委員長	富士市保健部介護保険課	高木啓
〃	委員	〃	水野拓二
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委員	富士市福祉部障害福祉課	高木啓
富士市差別解消支援協議会	委員	富士市福祉部障害福祉課	高木啓
富士市自殺対策推進会議	会長	富士市保健部健康政策課	高木啓
〃	委員	〃	久保伸年
富士宮市認知症医療研究会	委員	富士宮市福祉総合相談課	高木啓
静岡市精神医療審査会	委員	静岡市こころの健康センター	高木啓
富士圏域自立支援協議会	構成員	富士健康福祉センター	高木啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委員	富士健康福祉センター	高木啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委員	富士健康福祉センター	高木啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委員	富士保健所	高木啓
富士圏域措置入院適正運営協議会	委員	富士保健所	高木啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委員	富士市教育委員会	高木啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委員	富士市立中央病院	高木啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委員	富士宮市立病院	高木啓
ふじのくに地域医療支援センター東部支部運営会議	委員	東部保健所	高木啓
医療観察法研究協議会	委員	静岡地方裁判所	高木啓
静岡県精神医療審査会	委員	静岡県精神保健福祉センター	曾根満寿代
〃	〃	〃	川島茉己
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	曾根満寿代
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部長	富士健康福祉センター	山口雅弘
〃	構成員	〃	曾根満寿代
〃	〃	〃	川口恭子
富士警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委員	富士警察署	久保伸年
富士市障害支援区分認定審査会	委員	富士市福祉部福祉総務課	山口雅弘
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委員	富士宮市介護障害支援課	山口雅弘

沼津リハビリテーション病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査委員	沼津市介護保険課	岩本和也
沼津市フレイル予防事業	フレイルトレーナー	沼津市長寿福祉課	西島勇
沼津市障害支援区分判定審査会	判定審査委員	沼津市障害福祉課	鈴木亮太

訪問看護ステーションうしぶせ

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査委員	沼津市介護保険課	松川香織
〃	〃	〃	綿引里美
静岡県訪問看護推進協議会	委員	静岡県健康福祉部健康局健康増進課	松川香織
駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委員	静岡県東部健康福祉センター福祉課	松川香織

訪問看護ステーションふじみ

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
総会出席	代 議 員	日本精神科救急学会	飯塚香織
令和4年度精神障害者家族のためのこころの懇談会講師、グループワーク		熱海保健所	飯塚香織
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会出席		伊豆の国市障害福祉課	山岡里可

社会復帰事業部

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	東部健康福祉センター	鈴木伸二
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	熱海健康福祉センター	秋津崇史
熱海市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	熱海市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部 会 長	熱海市・伊東市	秋津崇史
伊東市障害支援区分判定等審査会	審 査 委 員	伊東市	鈴木伸二
伊豆市地域自立支援協議会	副 会 長	伊豆市	青木大輔
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議・運営委員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部 会 長	伊豆の国市	小山千菜美
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調 査 員	伊豆の国市	小山千菜美 武井紗知 杉山美幸
沼津市障害者自立支援協議会	副 会 長	沼津市	牛島聖美
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部 会 長	沼津市	鈴木伸二
沼津市障害者支援区分認定調査	調 査 員	沼津市	内藤治子
裾野市障害支援区分判定審査会	審 査 委 員	裾野市	杉山智子
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部 会 長	富士市	田尻ゆき
富士市障害者自立支援協議会	会 長	富士市	長谷川真美
富士市障害者自立支援協議会	事 務 局 長	富士市	田尻ゆき
清水町障害支援区分認定審査会	審 査 委 員	清水町	勝又美智子

[7] 受託事業

所 属	受 託 事 業 名
鷹岡病院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 静岡県精神障害者地域生活支援訪問事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
沼津リハビリテーション病院	生活機能向上連携（愛の家）理学療法士派遣 駿東田方地域リハビリテーション強化推進事業 支援センター
社会復帰事業部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業

VIII. 職員配置状況

沼津中央病院

令和5年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	16		4	1		-1	17		3
看護職	111	6	14	-1		-2	110	6	12
介護職	27	6	1	-3	-1	1	24	5	2
医療技術職	24		3	-1		1	23		4
福祉職	11		1	-2			9		1
事務職	15	2	1			-1	15	2	
労務職	17		3	2		-2	19		1
合計	221	14	27	-4	-1	-4	217	13	23

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	5		2	1			6		2
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	3						3		
合計	11		2	1			12		2

あたま中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	1			1			2		
事務職	1			1			2		
合計	3			2			5		

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	9	1					9	1	
合計	9	1					9	1	

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	8	1				1	8	1	1
看護職	44	4	14	3	-2		47	2	14
介護職	18	2	2			1	18	2	3
医療技術職	17		3	-4		1	13		4
福祉職	11			-1			10		
事務職	11		1	1		-1	12		
労務職	12		3	-1			11		3
合 計	121	7	23	-2	-2	2	119	5	25

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職		1	1					1	1
看護職	2	1					2	1	
医療技術職	2						2		
事務職	4			-1	1		3	1	
合 計	8	2	1	-1	1		7	3	1

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	3		19			-2	3		17
看護職	39	2	9	-1			38	2	9
介護職	34	1	5		1	-1	34	2	4
医療技術職	49		7	1		-2	50		5
福祉職	5			-1			4		
事務職	12		1				12		1
労務職	7		5	1		1	8		6
合 計	149	3	46		1	-4	149	4	42

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	5		1	-1			4		1
医療技術職	1						1		
合 計	6		1	-1			5		1

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	3		3	1			4		3
合 計	3		3	1			4		3

サポートセンターいとう

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			2						2
福祉職	3						3		
合 計	3		2				3		2

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	5		1				5		1
労務職			1						1
合 計	5		2				5		2

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合 計	4						4		

サポートセンターひまり

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	3			1			4		
合 計	3			1			4		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
事務職		1						1	
合 計		2						2	

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職			1						1
合 計			2						2

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職						1			1
合 計			1			1			2

グループホームふじみⅡ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1			-1			
合 計			1			-1			

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1			-1			
介護職		2	2					2	2
福祉職	2			1			3		
合 計	2	2	3	1		-1	3	2	2

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職						1			1
福祉職	4		2				4		2
労務職			4						4
合 計	4		6			1	4		7

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職		1	2					1	2
福祉職	2		2				2		2
合 計	2	1	5				2	1	5

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1			-1			
福祉職	2		1				2		1
事務職			1						1
労務職			2			-1			1
合 計	2		5			-2	2		3

本 部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	1			-1					
事務職	8		1		1	-1	8	1	
労務職		1			-1				
合 計	9	1	1	-1		-1	8	1	

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	29	2	24	1		-2	30	2	22
看護職	216	14	43	2	-2	-3	218	12	40
介護職	79	13	17	-3		1	76	13	18
医療技術職	94		13	-4			90		13
福祉職	57		11	-2			55		11
事務職	54	3	5	1	2	-3	55	5	2
労務職	36	1	18	2	-1	-2	38		16
合 計	565	33	131	-3	-1	-9	562	32	122

※管理者含む

以上